

2004年(平成16年) 4 月 2 日(金曜日)

ブリキ2次値上げ決着

液体化学品容器の十八

鈔缶やペール缶の材料であるブリキの二次値上げ交渉が決着した。原料価格高騰を背景とした鋼材価格引き上げの一環として打ち出されていた。昨年に続く二年連続の値上げとなるが、原材料の安定確保の観点から、需要家が受け入れた。今月出荷分から新値に移行す

る。

JFEスチールはこのほど、ブリキおよびティンフリースチールの値上げ交渉を決着させた。上げ幅は、ヒモ付き、店頭りともブリキが1ト当たり六千円、ティンフリーが同九千円。四月出荷分から実施される。ペール缶や十八鈔缶、食缶などに使われる缶用

鋼板は、一九九〇年代後半から需要が漸減傾向にあるうえ、価格が大幅に下落し、厳しい需要環境が続いていた。このため鉄鋼各社は一連の鋼材値上げの一環として、需要家に採算是正のための値戻しを求め、昨年十一月にブリキ三千円、ティンフリー五千円の上り幅で交渉が決着（五月契約分に遡及実施）して十二年ぶりの価格引き上げとなったばかり。

しかし、その後さらに原燃料価格が高騰するなど供給サイドの環境が悪化していることから、前回積み残し分を加えた二次値上げ打ち出しとなった。鋼材全体が値上げに動いている状況から、需要家も原材料の安定確保のため、値上げ受け入れを表明した。

他の鋼板メーカーも同様の状況で、缶メーカーは素材の値上がり分を製品価格に転嫁する意向を強めている。塗料や化学品、食品メーカー、化学品流通業界に大きな影響が及ぶことが必至の様相となっている。